

資料 4

島田市川根町笹間渡発見のヒメハルゼミについて(情報提供)

【発見の経過】

去る5月10日に牧野晃氏が博物館に来館され、「近年(3年前)、笹間渡の旧レイクサイド明日葉を購入して居住しているが、敷地内のカシやシイの木に6月初旬から7月初旬にかけて鳴くセミが生息しており、調べたところ(旧岡部町の昆虫館に問い合わせ)、「ヒメハルゼミ」(姫春蟬)ではないかと考えられる。県内でも吉田町周辺しか見られなく貴重種であるので博物館でも知っておいてほしい。」との情報提供(写真提供)があった。

【ヒメハルゼミについて】『ウィキペディア』、『日本産セミ科図鑑』(株式会社誠文堂新光社ほかより)

【分布】

新潟県、茨城県以西の西日本に生息する固有種で、本州・伊豆諸島大島・淡路島・四国・九州・隠岐・五島列島・甕島列島・黒島・種子島・屋久島・口永良部島・トカラ列島・奄美大島・徳之島等に分布する。

【形態的特徴】

体背面には光沢がなく、前胸背及び中胸背は褐色(オリーブ色)及び緑褐色の地に明瞭な黒条をもつ。前翅の翅脈上に2つの斑点があり、オスの腹部には小さな突起が左右に突き出ている。頭部は幅広いが、体部は細長い。メスは腹部が短く、腹部先端に細い産卵管が突出する。体長は、オスで23~30mm、メスで25~27mm、全長29~40mm、前翅の開張65~72mm。

【生態】

成虫が発生するのは、6月下旬から8月上旬までで、7月上中旬に多い。生息域は、シイ・カシ類・ハゼノキ・ツバキ・クスノキなどの丘陵地や山林の照葉樹林帯を好む。他のセミより一足早く短期集中で発生し、生息分布域も他のセミが面であるのに対して、このセミは飛翔能力が短いため、生活圏を広げられず点の分布域となり、生息条件も限られた貴重種である。*静岡県内では、掛川市や菊川市、御前崎市(旧浜岡町)等で生息が確認されている。

また、北限の茨城県笠間市(八幡神社、楞嚴寺)、模式産地である千葉県茂原市鶴枝(八幡山)新潟県西頸城郡能生町(白山神社)の発生地は、国指定天然記念物として保護されている。

【今後の対応】

まず、提供された資料が「ヒメハルゼミ」(姫春蟬)かの確認作業を行う。

⇒専門機関や発生地等の地元研究者に問い合わせる。県の研究施設である「地球環境史ミュージアム」等。

その後、島田市文化財保護審議会に改めて報告する。

○島田市川根町笹間渡で採取された「ヒメハルゼミ(姫春蟬)」



【牧野氏提供】

○ヒメハルゼミの類例：『日本産セミ科図鑑』より引用

